

[ホーム](#) | [サイトマップ](#) | [ヘルプ](#)

サイト内検索

検索

[詳細な検索](#)[本会議・委員会等](#) | [会議録](#) | [議案](#) | [質問主意書・答弁書](#) | [請願](#) | [制定法律](#) | [憲法審査会](#) | [委員会ニュース](#) | [衆議院公報](#)[国会について](#) | [衆議院の構成](#) | [国会関係法規](#) | [資料集](#) | [各種手続](#)

■会議録

第2号 平成24年6月15日(金曜日)

第180回国会 外務委員会 第2号(平成24年6月15日(金曜日))

(731 部隊と金子論文関連の質疑抜粋)

○田中委員長 次に、服部長一君。

○服部委員 社民党の服部長一です。

七三一部隊と日本軍による細菌戦の問題なんですけれども、二〇〇三年の十月に、「外務省、防衛庁等の文書において、関東軍防疫給水部等が細菌戦を行ったことを示す資料は、現時点まで確認されていない。」としつつ、「新たな事実が判明する場合には、歴史の事実として厳粛に受け止めていきたい。」という政府答弁をされておるんですね。

それで、きょう、ちょっと資料をお配りいたしましたけれども、その新たな事実が国立国会図書館の関西館に所蔵されているということが昨年十月に日本の民間研究者によって発掘をされました。七三一部隊所属の金子順一軍医少佐による論文集であります。この中で、昭和十五年から十七年まで、六回にわたる細菌作戦が実施をされた場所、効果等がまとめられているわけです。

これは米国が行った細菌戦に関する事実調査の結果とも符合する、既存の信頼できる資料等とも符合しているわけなんですけれども、大臣、この金子論文の新たな発見を踏まえて、日本政府として中国における細菌戦の事実の問題についてどういう見解をお持ちか、お聞きをしたいと思います。

○玄葉国務大臣 細菌戦の話は、森村誠一さんの小説なんかで出て、いろいろ話題を呼びました。

今の服部委員の指摘、いわゆる七三一部隊というのが旧日本軍の関東軍防疫給水部のことであること、及び他の旧日本軍部隊にも防疫給水部隊が存在したことは、これは公文書からも明らかになっている、先ほどおっしゃったとおりであります。ただ、いわゆる七三一部隊の活動の詳細については、やはり政府内部に資料は見当たらないというのが今の実態でございます。

今の御質問は、この金子論文が新たな事実として出たのではないかと、こういうお話なんだろうというふうに思いますけれども、今回、少なくとも、見つかった資料を含めて、歴史の学者の方々が今後どういう研究をし、その研究の深まりがどうなっていくのか、そういったことを踏まえながら、まさに先ほどおっしゃっていただいたように、新たな事実がそのことで判明するというのかどうか、そういったことを判断していきたいというふうに思っています。

○服部委員 学者がということじゃなくて、これはもともと国が起こした戦争、国の機関としてやったことですから、ここはやはり外務省としてきちっと受けとめてやっていただきたいということを申し上げておきたいと思えます。

細菌戦遺族の皆さんの希望は、日本政府の責任で旧日本軍七三一部隊等の調査機関を設けて事実調査をまず行ってほしいということをおっしゃっているわけです。ですから、この金子論文が発見されたということの一つの大きな契機にして、七三一部隊の細菌戦の調査研究、真相究明に着手するという決意をぜひおっしゃっていただかせんか。

○玄葉国務大臣 細菌戦に係る事実関係などは、時間的経過などを踏まえれば、政府が例えばさらなる調査を行って事実関係として断定できるのかどうかといえ、やはりこれはかなり難しいのではないかとこのように思っています。ですから、先ほど申し上げたように、歴史学者の方々のさらなる調査を待ちたいというふうに考えております。

○服部委員 いや、だから、研究者に依頼されるのはもちろんいいんですよ。しかし、そのことも含めて、外務省としてきちっとやっていただきたいということを申し上げているわけで、まあ、この件については、引き続きまた別の機会に議論をさせていただきたいというふうに思っています。